

**ひらめきで仕事を
人って、たいがい迷惑。**

アイデアを出すだけの人、なぜ組織を破壊するのか。

停滞を打破するヒーローか、現場を破壊するエラーか。



世間の勘違い (表の顔)

- 発想が豊かで決断が早い
- 「それだ!」と会議の空気を変える
- スピーディで有能に見える



現場の現実 (裏の顔)

- 昨日決まった方針を今日覆す
- 準備していた資料を突然ゴミにする
- 後出しで条件を追加し、システムを混乱させる

その思いつきは「泥のついた採れたての野菜」である。



ひらめき=未処理の素材

「思いついた」「面白そう」
「今すぐやるべきだ」

**洗浄・カット・調理の
プロセスが欠落**

そのまま出された食卓
食べられない素材を押し付けられ、
現場が疲弊する。

思考を止めた「ひらめき」が 引き起こす破壊の連鎖。

突然の
アイデア投下

矛盾:

今の優先順位と
衝突していないか?

負荷:

誰の作業負担が
どれだけ増えるのか?

競合:

既存の仕組みを
壊さないか?

不可逆:

失敗したとき、
元の状態に戻せるか?

属人化:

誰もが再現できる
仕組みになっているか?

彼らが迷惑なのは「発想力があるから」ではない。



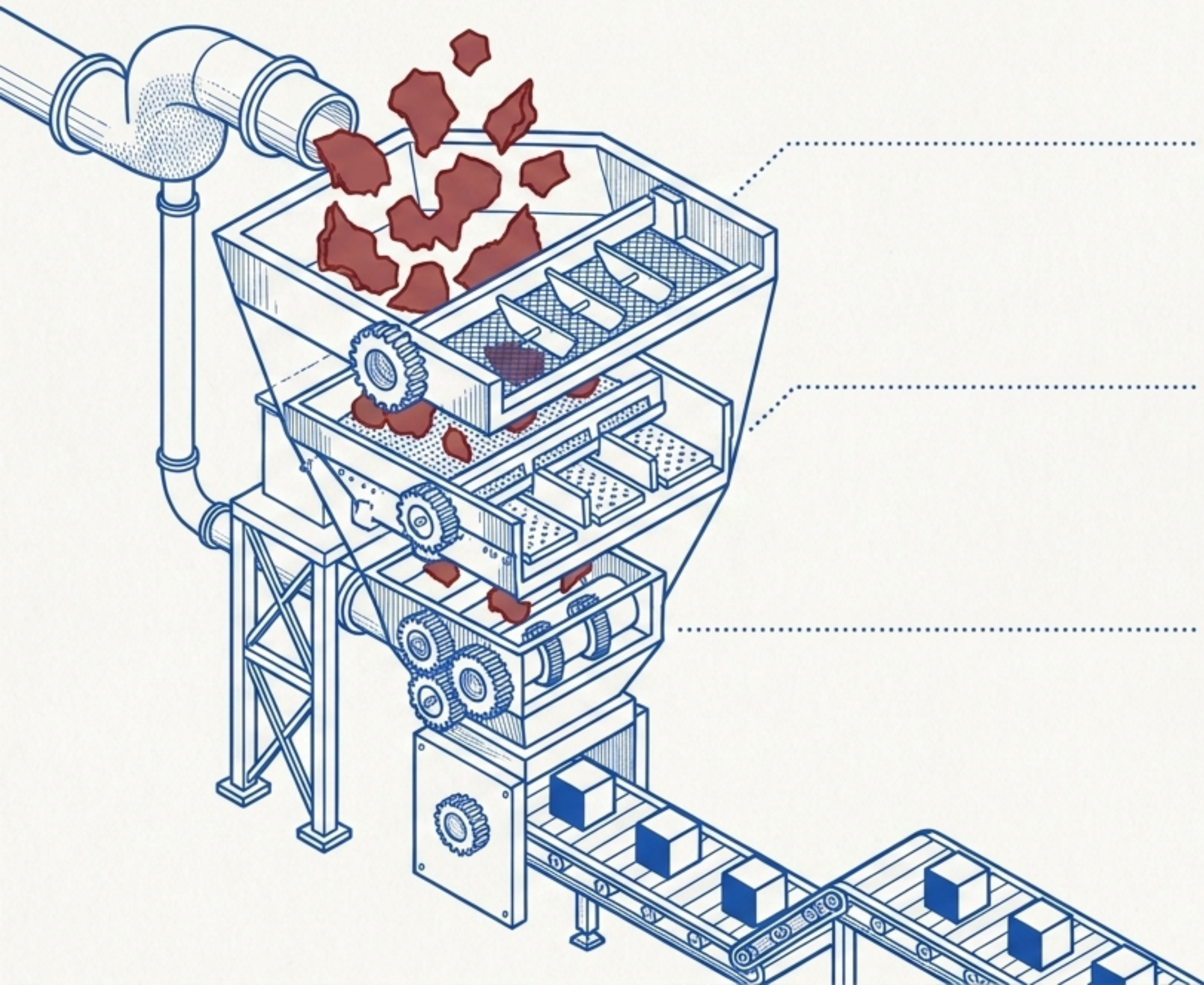
発想のコストを自分で払わず、
他人に払わせているからだ。

本人は新しいアイデアを出して「気持ちよく」なる。
しかし、失敗したときには「まずやってみただけだから」と悪びれずに済ませてしまう。

あなたはどちらか？ 2つの仕事のスタンス

	ひらめき先行型	運用設計型
目的	思いつきを披露すること ❌	他人が扱える仕組みを作ること ✅
変化への適応	「前向きで柔軟」と自称し、無計画に突っ走る	変化のコストを精緻に計算し、安全に回す
プロセス	思いつきをそのまま人に投げつける	誰にどう伝えれば誤解なく回るか分解・設計する
失敗時の態度	「まずやってみただけ」と悪びれない	テストと本番の境界線を事前に引いている

「運用設計」の解剖図：アイデアを仕事に変換するプロセス



削る

思いつきを目的の形に合わせて
不要な部分を削ぎ落とす。

優先順位を整える

現場のリソースと照らし合わせ、
導入の順番を設計する。

他人が扱える形に変換

属人性を排除し、誤解なく回る
マニュアルや仕組みに落とし込む。

【実践ヒント】提案前に確認すべき 「3つのセルフチェック」



目的

これはチームの「何の課題」を解決するのか？

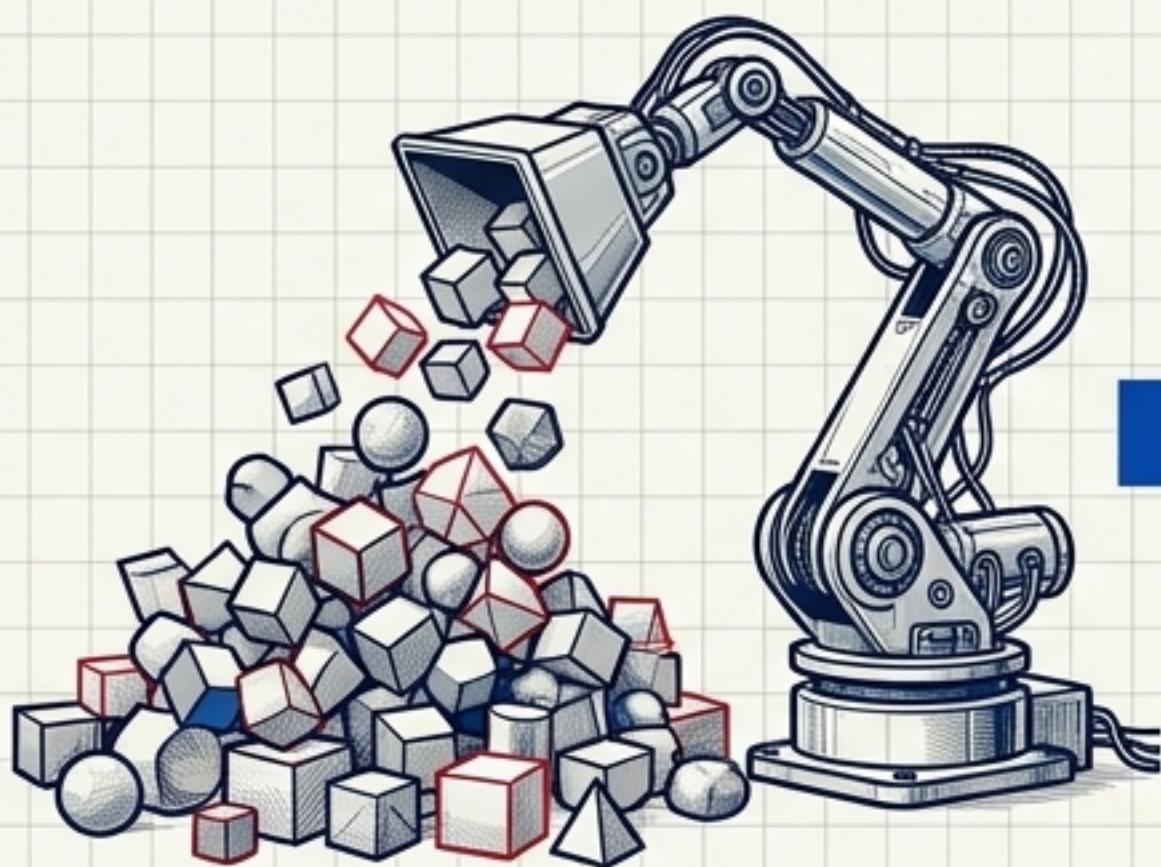
影響

これを始めることで、誰の既存業務がストップするか？

撤退ライン

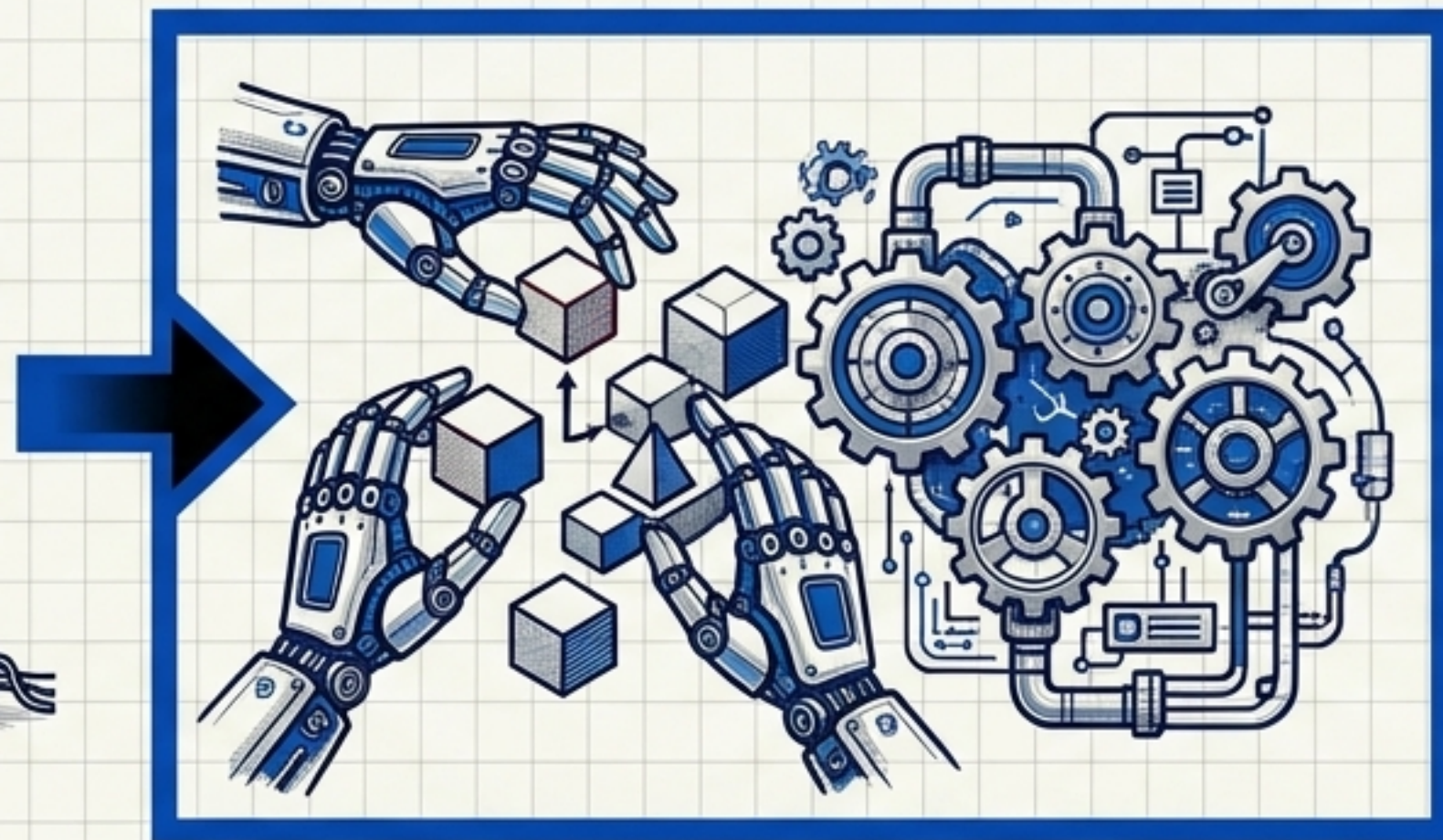
失敗したと判断する基準は何か？（期間・数値）

AI時代の生存戦略: 「アイデア出し」はAIの仕事になる。



ひらめき (AIの領域)

膨大なデータから数秒で100個のアイデアを出力。
*ただし、文脈も感情も無視した「未処理のテキスト」。



運用設計 (人間の真価)

取捨選択し、オペレーションに落とし込み、
感情を汲み取って「壊さずに回す」。



新しいビジネス価値

アイデアを出すだけの人は代替される。泥臭い運用設計ができるプロこそが、これからの時代に求められる。

“「ひらめきで仕事をする人は、仕事が速いのではない。
後始末を他人に押し付けているだけだ。」”

“「仕事とは、才能の披露会ではない。
アイデアを『再現可能な仕組み』に
に落とし込む作業である。」”

「思いつくことよりも、
『壊さず回すこと』のほうが、
ずっと難しく、ずっと価値がある。」

